



平成30年11月14日

各位

会社名 株式会社フォーサイド
代表者名 代表取締役 假屋 勝
(JASDAQ・コード2330)
問合せ先 常務取締役 飯田 潔
電話 03-6262-1056

連結業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、平成30年11月14日開催の取締役会において、最近の業績の動向等を踏まえ、平成30年2月14日に公表した平成30年12月期通期連結業績予想を下記の通り修正するとともに、特別損失の計上を行うことといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

(1) 修正の内容

平成30年12月期通期連結業績予想数値の修正（平成30年1月1日～平成30年12月31日）

	連 結 営 業 収 益	連 結 営 業 利 益	連 結 経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 4,084	百万円 150	百万円 150	百万円 51	円 銭 1.85
今回修正予想（B）	3,840	△150	△130	△450	△14.60
（B－A）	△243	△300	△280	△502	
増減率	△6.0%	△200.0%	△186.5%	△978.0%	
（ご参考）前期連結実績 （平成29年12月期）	3,000	20	30	10	0.38

(2) 修正の理由

当社は新たなポートフォリオを構築し、業容の拡大及び事業リスクの分散を進めております。今期も更なる売上と利益の拡大を目指しておりましたが、フォーサイドフィナンシャル株式会社では、投資銀行事業は堅調に推移したものの、新規事業である①仮想通貨マイニング事業において仮想通貨市場の環境の変化に起因した収益予想の見直し、及び取得した固定資産（マイニングマシン）の償却による特別損失を計上しました。フォーサイドメディア株式会社では、②オリジナルグッズ受注生産販売通販サイト「宝祭堂」のサービス開始遅延、③スマートフォン向けゲームアプリ「夢界物語」のサービス開始遅延により収益予想の見直しをいたしました。一方、株式会社ブレイクの④プライズ事業においては、今年も引き続き好調を維持しております。

これらの結果、平成30年12月期通期連結業績予想を修正する運びとなりました。主な要因は下記の通りです。

連結売上高については、フィンテック関連事業における、①仮想通貨マイニング事業を平成30年6月中旬から本格稼働しておりましたが、当初予想していた以上に仮想通貨市場の取引が縮小し、計画していたマイニング報酬の獲得に至らず、さらにビットコイン相場の価格低迷も重なったことで売上高は当初予想より148百万円減少となる見込みです。マスターライセンス事業における新規事業の②オリジナルグッズ受注生産販売通販サイト「宝祭堂」の運営では、商品開発が計画より遅れ、サービス提供開始が遅延したことに加え、③スマートフォン向けゲームアプリ「夢界物語」については、ローカライズの発注を予定していた委託先の環境の変化が影響し、サービス開始時期を見直すこととなりました。その結果、売上高は当初予想より231百万円減少となる見込みです。④プライズ事業においては、今年も引き続き好調を維持しており、売上高は当初予想より160百万円増加となる見込みです。以上の結果、連結営業収益については当初予想していた4,084百万円より243百万円減少となり3,840百万円となる見込みです。

連結営業利益については、主に売上高の差異要因に加えて、フィンテック関連事業で、取得固定資産（マイニングマシン）の減価償却費が影響し、当初予想より147百万円の減少となる見込みです。マスターライセンス事業では、宝祭堂などの人件費や家賃等の固定費が収益を圧迫したことで、当初予想より94百万円減少となる見込みです。不動産関連事業では、主に売上増加に伴い貸倒引当金繰入額等の販管費が増加し53百万円の減少となる見込みです。以上の結果、連結営業利益については当初予想していた150百万円より300百万円減少となり△150百万円となる見込みです。

連結経常利益についても、上記の要因により修正を致します。

親会社株主に帰属する当期純利益については上記の要因に加えて、フィンテック関連事業で取得した固定資産（マイニングマシン）の全額を減損損失として262百万円計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純損失は450百万円となる見込みです。

2. 特別損失について

平成30年12月期第3四半期連結会計期間において、平成30年6月中旬から本格稼働しましたフィンテック関連事業である仮想通貨のマイニングにおいて、仮想通貨市場の環境の変化に起因したビットコイン相場の価格低迷及びマイニング報酬の減少により当初計画していた売上が見込めず、今後の仮想通貨市場の先行き不透明等を考慮した結果、フィンテック関連事業で取得した固定資産（マイニングマシン）の全額を減損し、減損損失として262百万円を計上することとしました。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後のさまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上